

生徒対応

■生徒の理解度に応じて行われる図書館オリエンテーション

名護特別支援学校では、生徒支援の取組みの一つとして、生徒の特性に合わせた図書館オリエンテーションを行っています。図書館の使い方や分類で本を探す勉強も生徒の理解度に合わせて行うため、必ずしも全クラスが4月にオリエンテーションを終了するというわけではありません。クラスによっては複数回に分けたり、同じオリエンテーションを行います。

10月

図書分類のお勉強
(名護特別支援学校図書館)

今回は、図書館のどこにどんな資料が置いているのか勉強します。
図書館にある館内見取り図を見ながら確認します。



見取り図を見ながらどんな本が図書館に置いてあるのか説明します。
調べ学習をする時に役に立つ本の場所に行ってみましょう。

本がどこにあるのかもしっかり案内して教えます。
写真は図鑑・辞書などの資料が置いている場所です。



どんな図鑑があったか実際に手に取って見てからワークシートに記入します。
先生は1人1人生徒の特性を考えながらフォローをします。

■授業で図書館を利用する

名護特別支援学校では、調べ学習によく図書館を利用します。すぐに図書館に行くのではなく、授業の最初の数分～十数分の時間を使って、今日は図書館で授業を行う事、図書館で何をするのかを先生が説明をした後に移動します。先に説明をきちんと行う事で生徒がいつもと違う場所で授業を受けることへの不安を取り除くことができます。また、図書館の使い方の勉強も定期的に行います。

高等部の授業で活用 (名護特別支援学校図書館)



名護特別支援学校の図書館は Wi-Fi 環境がよいため、本とタブレットの両方を使って調べ学習をすることができます。座席も椅子に座るタイプと床にそのまま腰を下ろして使えるタイプがあるため、その日の気分や生徒の特性に合わせて利用することができます。

図書館利用の基本を身につけさせる (名護特別支援学校図書館)



自分が借りた本は一人ひとりきちんと返します。

本の場所が分からないときや本が探せない場合は学校司書に聞きます。



お友達が借りた本の中に自分が読みたい本があっても、お友達が本を返して自分が借りられる状態になるまできちんと待ちます。また貸しなどはしません。

司書の生徒対応
(名護特別支援学校図書館)

■日頃(ふだん)の対応



生徒をほめるときにはぬいぐるみ絵本を使ってほめると生徒は喜びます。

■イベントにおける対応



10月はハロウィンが近いこともあって、カウンターにあるぬいぐるみにハロウィンのかぶせものをしました。こだわりの強い生徒からはいつもと違うことに不安な反応されましたが、ハロウィンの説明をすると納得したようです。きちんと説明をすることで生徒の不安を取り除くことができます。



読書月間のおまけとして手作りの葉を生徒に渡しています。



一番人気は鳥の葉だそうです。

■本をこわしたときの対応

生徒が本を壊してしまったり、うっかり傷つけてしまったりする場合があります。そうした場合は図書館に生徒本人が謝りに来るか、先生からの声掛けをしてもらうようにしています。

本が壊れたら修理は司書が行います。中には破れてしまった場所にセロハンテープを貼って自分で直してしまう子もいますが、資料保存の点からも「次からは先生が直すからね」と一言声かけも行います。



沖縄県立図書館ホームページ「学校図書館支援」では、学校図書館の取組みについて情報提供します。内容については随時更新してまいります。